

Letters

Arpak

レターズアルパック

VOL.231

ISSN 2432-5295

ゆめ

CONTENTS

- ◆【ゆめ】…01～04
- ◆今、こんな仕事をしています…05～08
- ◆事務所だより…08
- ◆近況&イベントのお知らせ…09～10
- ◆まちかど…裏表紙
- ・「人」の姿で街なかを元気に！～佐賀市街なかバルの取り組み～

幼少期の夢は「金持ちになること」でした。好きな人と好きな事を好きなだけする、夢の世界を手に入れたいとの思いからです。ネットビジネスに熱中し、株式投資に没頭し、お金を稼ぐことに無我夢中でした。心変わりの転機は、貧困国家でありながら幸福の国と呼ばれるフィジーへの留学です。フィジー人から「人との繋がりを大切に、お互い様の精神で、今を全力で楽しむ、この生き方が幸福の源であり、そこにお金は不要だ」と教わりました。金持ちにならないと手に入らないと思っていた夢の世界を、フィジー人は「生きる姿勢」で自然に手に入っていたことに驚きました。フィジーで見た世界の様子にお金よりもっと大切なものが身近につくれる日本を夢見しています。

新しい年がはじまりました。新年号のテーマはこの時期定番の「ゆめ」。「ゆめ」には二つの意味があって、一つは睡眠中に見る夢、もう一つは将来の夢。正月二日の夜に見るのが初夢、年頭にあって語るのが将来の夢です。

所員のみなさんに「ゆめ」というテーマで投稿を依頼したところ、多くの方が（過去に抱いていた）将来の夢についての内容でした。睡眠中の夢を見る人は少ないのか、今、夢を抱いている人は少ないのか。はたまた公式のレターで夢を語ることが憚られるのか。どう読むかは読者のみなさまにゆだねます。本年もレターズアルパックをよろしくお願いします。

レターズアルパック編集委員会

ゆめ

「分からぬ...」を大事にする

都市・地域プランニンググループ／稲垣和哉

ゆめ、と言われて、夢野久作の「ドグラ・マグラ」を思い出しました。学生時代の暇な時に、なぜか手に取って読んだ本です。三大奇書の一つとして有名ですが、確かに独特な読後感を経て、「分からぬ...」となった記憶があります。

本を読む、となれば、最近はどちらかというと実用書や専門書になりがちで、小説を読む機会が減りました。順を追って丁寧に話が展開されていく「分かりやすい!」も良いのですが、自分には無い価値観にさらされて「分からぬ...」となる時間も大事なあと改めて思います。とある人が、この「分からぬ...」を経てパワーアップすることを「脳がでかくなる」と表現していて、なるほどと思いました。僕もどんどんでかしていきたいと思います。

トライ&エラーと今年の抱負

公共マネジメントグループ／石川俊博

「夢」と言われたら子供の頃なりたかったものを思い出す人が多いと思いますが、私は挫折したことを沢山思い出しました。傘をパラシュートにして空を飛ぶ（少し高い場所から飛び降りるも傘が壊れて挫折）、穴を掘って地球の裏側に行く（マグマがあると知り諦める）、永久機関（磁石で色々やってもどうしても途中で動かなくなる）、ドングリを埋めて大木に育てる（未だに育たない理由不明）などです。

結局はどれもできなかったことですが、自然や世界の仕組みを知るきっかけになったり、新しい知識に出会ったときに失敗の経験があるが故によく仕組みを覚えることができました。さて、ここから今年の抱負のようなものですが、幼い頃にトライ&エラーで世界を広げたように、何事も怖がらずに挑戦する年でありたいと思いました。



夢から目標へ 総務部／近江篤

子供の頃、将来の夢は、と問われると屈託のない表情で「プロ野球選手」と答えておりました。自分の過去を振り返ると、学生時代は好きな野球ばかりしていたなと顧みることができます。

当時の「なりたい職業ランキング調査」では、男の子なら断トツで野球選手等のプロスポーツ選手でした。しかし、現代ではユーチューバーという回答があるものの、会社員／公務員等の現実路線の回答が意外に多いようです。

6歳の息子に将来の夢を聞いてみると、「医師」（医師でも外科医という具体的な回答に驚き!）。夢を持つことは「目標」になる為の第一歩でもあるので、親としてできることを精一杯していきたいと考えています。

夢の外へ

地域産業イノベーショングループ／遠藤真森

大学時代からよく聴いている星野源さんの楽曲に、「夢の外へ」があります。源さんらしい世界観や価値観が散りばめられていて、好きな曲です。

歌詞に「意味の外へ連れてって そのわからないを認めて この世は光 映す鏡だ」とあります。自分の頭の中は人に理解してもらえないし、自分でも訳がわからなくなることがあるけど、その「わからない」を受け入れて外に出てみたら、はっきりするかもしれないし、わからないままでもいいと思えるかもしれないという意味だと解釈しています。誰しも理解されない、できない恐れは持っていますが、とりあえず外に、社会に出てみよう。身近にいる内に籠もりがちな人、あるいは自分自身にたまに聴かせたい曲です。

「ゆめ」と聞いて・・・
地域再生デザイングループ／小川直史

私は、約10年前に終了した某お笑い芸人がパーソナリティを務めていた深夜ラジオのヘビーリスナーでした。番組終了以降も何度も聞き直し、約160回の放送をかれこれ5周は聞いています。学生時代は、研究生生活と寝る前のお供でした。エンディング曲として使われていた曲が、銀杏BOYSの「夢で逢えたら」。番組の終わり際にトークと並行してこの曲が流れ始め、「夢で逢えたらいいな、夜の波をこえてゆくよ」というフレーズと共に毎回の放送が終わりました。最終回のエンディングでは、過去の名物トークと押し寄せたリスナーの歓声とともに歌が流れ、グッとくる演出となっています。今年もまた、移動のお供です。



夢を語らう場所
地域再生デザイングループ／太田雅己

大学時代からこれまで一人暮らしをしていましたが、共同生活やコミュニティ形成に関心があったのと、何より楽しそうだと思い、12月から同年代の5人でシェアハウスを始めてみました。共用スペースのリビングで、みんなが集まってとりとめもない話をしていると、たまに熱くなって夢を語り合う瞬間もあります。

仕事に追われていると自分が本当に何がしたいのかを見失いそうな時がありますが、そうして語りあったときに、自分の言葉にして思い出すことができます。

年齢を重ねて落ち着いていかないといけませんが、時には青くさい夢を語り合うことも大事にしていきたいと思っています。

しょうらいのゆめ
サステナビリティマネジメントグループ／駒和磨

「しょうらいのゆめ」というのは、小学校～高校で、クラス替えに伴い年に1回は自己紹介で発表する（させられる）テーマだったなと記憶があります。当時の自己紹介文を遡ってみると、私は、12年間ずっと「社長」と書き続けていました。今思えば、特に上に立つ立場になりたいわけでも無く、当時なぜ書いたのか思い出せません（笑）（たぶん、正直に夢を書くのが恥ずかしかったのかと思います・・・）。

今回の記事で、自分の夢を振り返る機会になったので、これからの20代終盤も、しっかり自身の夢に向き合う時間を取っていこうと思いました。



夢にまつわる作品
都市・地域プランニンググループ／小島みのり

今回はテーマが「ゆめ」なので、夢から連想されるキーワードに合う作品を紹介します。

【明晰夢】『インセプション』（クリストファー・ノーラン）【夢を追う】『ジョジョの奇妙な冒険 Parte5 黄金の風』（荒木飛呂彦）【予知夢】『DUNE』（ドゥニ・ヴィルヌーヴ）【悪夢】『マルホランド・ドライブ』（デヴィッド・リンチ）【ユートピア】『アメリカン・ユートピア』（スパイク・リー）【ディストピア】『未来世紀ブラジル』（テリー・ギリアム）【ノスタルジック】『牯嶺街少年殺人事件』（楊徳昌）【幻想的】『セノーテ』（小田香）

お正月っぽくないものも混ざっていますが、お正月休みにぜひ見てみてください。

いつか行ってみたい場所：ヘリタンス・カンダラマ
建築プランニング・デザイングループ／杉本健太郎

本レターズの編集長から「夢を持っていますか？」と突然聞かれたとき、私はいつか行ってみたい場所が、ぱっと心に浮かびました。それは、スリランカのジャングルの中にあるホテル、ヘリタンス・カンダラマ（ジェフリー・バワ設計）です。森と建築が溶け込んだ風景を映像で初めて見たときは、衝撃的でした。そもそもリゾートホテルというものに泊まったことがなく、ヘリタンス・カンダラマは、行ってみたい夢の場所であり、そこで長い時間ぼーっとして過ごすことに憧れがあります。多忙な業務に追われる日々の中で、さらにコロナ禍が加わり、海外旅行はもちろんのこと、国内旅行でさえも気軽に行きにくい時期が続いていますが、いつか必ず行ってやりたいと思います。

「夢」って何だろう
建築プランニング・デザイングループ／新開夏織

「将来の夢は何？」—小さいころから、この質問をされるたびに困った記憶があります。改めて、夢って何だろう？と考えていたら、不意に、忍たま乱太郎の『夢はでかくなけりゃつまらないだろう胸をたたいて冒険しよう』という歌詞が頭に浮かびました。他にも『やりたいことやったもんがち』『じっとしてちゃはじまらない』『ぼくたちが持てる輝き永遠に忘れないでね』といったフレーズがあり、「夢」って大きく考えすぎなくても、やりたいことを素直にやってみることが夢への一歩なのかなと思いました。

まずは好きな事、気になる事をやってみることを夢にして、大きな「何か」を探してみたいと思います。

小学校の思い出 地域再生デザイングループ／竹内和巳

小学生のころはもっぱら「劇的大改造ビフォーアフター」大好き子だった私ですが、そういえばあれはまちづくりだったのかなあ、という思い出があります。

当時小学校の総合学習で、「浜松 NPO ネットワークセンター」の方と一緒に、地域の川の清掃などの活動をする機会がありました。

曖昧な記憶ですが、なんだか楽しくて、一生懸命やっていた気がします。学校で声掛けして彼岸花の球根を集めて川沿いに植える企画をした気がしたので、検索してみたら群生していたので大勝利です。

実は昔から夢だったのかもしれませんが。今年は脂汗の少ない夢にできることを切に願います（笑）

人と人がつくる「夢」の世界 地域再生デザイングループ／高瀬咲

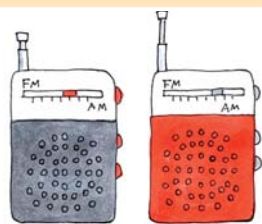
「私たちは夢の中にいる。それは愛でできている。」これはコロナ禍で自粛になって以降、久しぶりに生で鑑賞したライブの冒頭の言葉です。

今までは作品に夢や希望をもらうばかりと思っていましたが、現地で「お客様がいて成り立つ、輝かせてくれる」という演者さんの言葉を聞き、みる者がいなければ成り立たない「夢」の世界と同様に、客席で観ている私も作品の世界を作る一部なのだと実感しました。

ライブや舞台は生で場をつくるという限りなく「現実」の延長線上で「夢」のような体験ができるというところが魅力で、いつも力をもらっています。これからも「夢」を糧として「現実」を頑張っていきたいです。

夢中になっていること 都市・地域プランニンググループ／筈谷友紀子

私がずっと「夢」中になっていること、それは深夜のラジオ番組を聴くことです。一週足りとも欠かさず聴いている番組が2つと、たまに聴きたくなる番組がいくつかあり、これらが私の心の拠り所です。昔から寝付きが悪い方で、それこそ悪い「夢」をよく見てしまうのですが、そんな夜のお供が深夜ラジオでした。深夜ラジオの魅力はまるでパーソナリティーとおしゃべりしているような、昔からの友達のような、そんな錯覚に陥るところです。最後に、深夜ラジオあるあるで締めくくりたいと思います。『毎度寝落ちしがち』



この執筆を機会に改めて考えました サステナビリティマネジメントグループ／豊福宏光

私は幼少期に描いた大きな「ゆめ」は特に無かったですが、興味のある事やモノはあり、現在までそれなりに興味のある事等を経験させて頂いたと思っています。生きることに対してその時々、本気で考えワクワクしたり楽しかったりしましたが、改めて考えると最終的に自分がこんなことをしたい＝「ゆめ」を真剣に考えたことが無かったと気が付きました。その理由は、とにかく生きるためにがむしゃらだったり、親の教育の固定観念だったり、時には世間の既成概念だったり、邪魔をしていたと思います。現在私が40歳という年齢や家族・友人の生活、社会の事・モノが劇的に変化する中で、今だからこそ具体的な「ゆめ」を考え、その実現できるように日々を丁寧に過ごしたいと思っています。

夢見心地 公共マネジメントグループ／水野巧基

夢と聞いて私が思い浮かべたのは、「竹久夢二」です。学生の頃、夢見心地でウトウトしていると、留学生に「夢二を知っているか？ Kawaii(かわいい)文化のルーツを作った人だよ。」と熱弁をされたことを思い出しました。あれから数年、彼の生まれ育った岡山県瀬戸内市で、仕事をさせて頂いているのも何か縁を感じます。

今や世界共通言語となった「Kawaii」は、女性と男性にとっても「夢」なのかもしれません（かわいい女性になりたい、かわいい人と結婚したい）。

そんなことを考えながら、今の私はというと、昨年に娘が生まれ、妻と娘のかわいい女性に囲まれて夢見心地な日々を過ごしています（笑）

ヨガで健康な心と体を鍛えます 地域産業イノベーショングループ／ホアン ゴック チャン

大阪に住んでいた時、仕事帰りにヨガクラスに通ってました。夜の授業はちょうど仕事との区切りも出来て嬉しいのです。一時、ヨガの先生のカッコよさに憧れインストラクターになりた〜いという夢を持ちました。当時は仕事が終わっていても定時になると、先に授業に向かい、レッスン後にまた仕事に戻るくらい練習したかったです。そして、自宅だけでなく旅先でもどこでもヨガすることに夢中になりました。

最近、引っ越しでバタバタして、ゆっくりヨガをすることさえ出来ませんでした。夢を追いながら、体と心のバランスの取りつつ、今年は健康でヨガが出来る生活を取り戻したいと思います。

たまにはちゃんと考えてみようかと思います
都市・地域プランニンググループ／山崎将也

小さな頃に見ていた将来の夢は「登山家」だったと思いますが、他にも何も知らないが故の無鉄砲な様々な未来を思い描いていたような気がします（だいぶ忘れてしまいました）。そこから歳を経るごとに、無鉄砲だった夢は少しずつ現実的なものへと替わっていきましたが、夢の大きさより、それを叶えるためにどれだけ頑張れるかが大切なのだろーと思います。

人生の折り返し地点も後ろにボヤけ始めた今、改めて「夢」にどう向き合うか。子供の頃に思い描いていたこと、今やりたいこと、将来成し遂げたいこと・・・正月の間に少し真面目に考えてみようかと思います。皆様の今の「夢」は何ですか？

特別なことをするために、普段どおりの当たり前のことを
地域産業イノベーショングループ／武藤健司

小学生の私は、野球チームに所属していたこともあり、将来の夢はプロ野球選手でした。特に、イチロー選手に憧れて、打席でのルーティンから背面キャッチまで、何でも真似をしていました（小学校の卒業アルバムには「第2のイチローをめざす」と書いています）。

プロ野球選手にはなれなかったですが、イチローイズムには常に刺激を受けてきました。準備の大切さ、言葉にして挑戦すること、自分にできることを積み重ねるなどなど、プロとしての姿勢を学ぶことも多いです。引退会見での名言「後悔などあろうはずがありません」なんて言える日々を過ごしていきたいです。



改めて夢を持つ
地域再生デザイングループ／山道未貴

夢と聞いて、小学校の文集に友達が開くケーキ屋さんの隣で雑貨屋さんをすると書いたことを思い出しました。当時は、自分の好きなことを仕事にしたいと思っていたのかなと懐かしく感じました。大人になっても共通することは、自分の好きなことを仕事にできていることです。また、去年は地元でお仕事させていただく機会が増え、夢が一つ叶いました。コロナ禍もあって、なかなか現場に行くことができず不自由でしたが、やはり直接会ってお話することがこの仕事の醍醐味だなと感じました。

性格的に少し冷めているところがあるので、夢なんて語ってもといったところもありますが、コロナ禍だからこそ、こんなことしたい、こうなりたいと夢を持たなくてはと思いました。

2050 年宇宙の旅へ
地域産業イノベーショングループ／山部健介

前澤社長の宇宙旅行で思い出したが、私が一番最初に持った夢は「宇宙旅行」に行くことだった。毎晩寝る前に読んでもらっていた本は、宇宙の仕組み図鑑とニール・アームストロング船長の月面着陸の話だった。宇宙での食事や風呂、トイレの仕組みを熱心に勉強したり、毛利衛さんが日本人初のスペースシャトル搭乗が決まった際には、牛乳パックでシャトルを大量に作って怒られた記憶がある。

それから 30 年以上たったが、Youtube で宇宙船の打上げ（と無線での交信）を見ると、無性にワクワクするのは変わらない。100 億は無理だが、2050 年に 100 万くらいになったら喜んで行こうと思っている。

少し先の、少し遠くへ
都市・地域プランニンググループ／依藤光代

4 歳の息子に夢を尋ねたところ「新幹線の運転士」と即答！1 年ほど前は「新幹線」そのものになりたいと言っていたので、成長を感じます。

6 歳の息子は「家をつくる人」。家を建てる大工さん？と尋ねると「どんな家にするか考える人。設計士」とのこと。私も夫も設計を仕事にしているわけではないので多少驚きつつ、ニヤリと顔が緩んでしまいました。

去年は 10 代や 20 代のことを振り返る機会が何度かあり、手つかずになっている目標があることを確認しました。今年は目線を上げて、目の前や足元のことでなく、少し離れた人とも交わり、少し先のことも意識し、少し遠くを見て関わっていくように心がけたいと思います。

夢のある未来のために
地域再生デザイングループ／山本貴子

昨年、新年号の特集“福”で、私は「今年はまた福島に行きたい」と記し、そして十年ぶりに福島を訪れました。その街は、描いた通りにはなっていなかったけれど、建物が建ち、人が暮らし、生活の音や匂いがありました。そして、街で見かけた「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」の桜の木には、“たくさんの支援や応援のおかげで夢に向かって頑張っています”とのプレートが掛かっていました。街をつくるということは、とても難しい。思うようにいかないことばかりです。それでも、絶望や失望の中で小さな希望となり、当たり前の日常をつくり、誰かの夢を支えることになるんだということを改めて感じた旅でした。

PFI 法に基づく市営住宅建替事業の アドバイザー業務に携わっています

岡崎まり：
地域再生デザイングループ



今年度からは、建替事業をPFI法に基づいて実施するためアドバイザー業務を行っています。その一環として10月に建替え対象の住棟にお住まいの方を対象とした「ご意見をお聞きまする場」を4日間にわたって開催しました。

八尾市でのこれまでの市営住宅の建替えでは、設計段階においてワークショップ等を開催し、入居者の意見を聞き取りながら建替え事業を進めていました。PFI法に基づく建替事業では入居者の意見を先にお聞きし、それに則って民間事業者から提案をしていただけるよう、事業者選定の募集要件を作成す

平成31年度から令和2年度までの2年にわたって、大阪府八尾市における市営住宅の長寿命化計画と八尾市北部に位置する市営西郡住宅の民間活力導入可能性調査及び建替え基本計画の策定業務に携わってきました。

※この業務は地域再生デザイングループの嶋崎雅嘉、建築プランニング・デザイングループの和田裕介、西村幸治も担当しています。

居住性の向上を図るためにはバリアフリー化や設備の改善が必要ですが、そこで暮らす入居者が日々の暮らしを安心して穏やかに暮らすためには、それ以上に、近隣住民とのつながりづくりや気軽に集まれる場、外出する機会の創出などが重要になってきます。新しい団地は令和7年度に完成予定であることから、それまでの時間を有効に活用して新しく集まって住むことになる入居者同士のつながりづくりが少しでも進むような機会の創出についても検討し、アドバイザー業務を進めていきたいと思っています。

「ご意見をお聞きする場」の開催中には、対象世帯のうち2割強の方々が参加してくれました。建物仕様に関する意見も多く出ましたが、今回の建替事業の対象棟が11棟に及ぶこと等から、新しい団地のルールづくりや良好なコミュニティ形成が行えるようにしてもらいたいといったご意見も多くいただきました。また、高齢者が多く住むことから移転に伴う不安も多く、移転支援の重要性に改めて気づく機会となりました。

ナディアパークの活用方策を検討しています



ポストモダンなデザインが目を惹くナディアパーク

福井秀樹：
名古屋事務所

名古屋の繁華街、栄の南部（通称・栄ミナミ）にあるナディアパークを御存じでしょうか。

アルパックが構想・計画段階に関わったこの施設はデザインセンター、音楽ホール、店舗（ロフト等）、オフィスからなる複合施設です。当時、全国的にも数少なかった公有土地信託事業により平成8年（1996年）に開業しました。名古屋の南北のメインストリート大津通から一区画西の不利な立地にナディアパークが開業した理由は、高校跡地となる市有地を有効活用するためです。百貨店中心のこのエリアに、それまでになかった都市生活者や若者を対象としたメディアサポート（情報源）

として誕生して以来、人通りの少なかったエリアの周縁部にも人々が訪れるようになり、栄ミナミエリアの面的発展に貢献してきました。しかし近年、社会状況に加え、栄地区に比べ広域交通網に優れた名古屋駅地区の集客力が高まり、栄地区の停滞感が感じられるようになっていました。

このような状況の中、栄地区では、昨年Park-PFI事業によるHisaya-odori Parkが開業。長年の懸案事項であった栄広場再開発の事業候補者が決定。更新期を迎えた大規模ビルの建替え計画が相次いで公表され、都心居住も促進されるなど一大変革期を迎えようとしています。表題の調査は、開業後25年が経過したナディアパークの周辺エリアの活性化や都心のまちづくりに寄与する活用方策を検討することを目的としています。

開業当初とエリアの変革期を迎えた現在。全く異なる環境において、どのような活用方策が見いだされるのか、貴重な検討の機会を得ることができたと思ひます。調査に臨みます。



まちの来し方を振り返り、ポストコロナの行く末を考える ～祇園まちづくり研究会がスタートしました～

高野隆嗣：

地域産業イノベーショングループ



京都はもとより、本邦を代表する観光名所とされる東山。世界的な疫病の発生から丸2年、国内がようやく落ち着きを見せた昨秋以降、「お日さんの高いうち」に限られますが、徐々に「ざわいを取り戻しています」。

疫病が流行る前と様子が異なるのは、街を行き交う人の殆どが国内旅行者であること。紅葉の季節でもあり、長引く「自粛」で心身とも草臥れ果てた皆さんが、全国から癒しを求めて、いや救いを求めてお越しになられているのでせう。訪れた人々の心を安らかにして、再び元気に故郷へお返しするのが京都のチカラ。残念ながら数年前まで、このチカラは失われていました。インバウンド客が押し寄せる中、街中には他国の言葉が溢れ、ドラッグストアや家電、飲食や宿泊施設をはじめ、彼らの懐を狙う外部資本が席卷していました。一昨年来、様相は一変。国内外を問わず観光客はピタリと止まり、各種催事も軒並み中止と

なりました。雨後の筍のように打ち立てられたホテルも開店休業、あらゆる店舗が休業や転廃業に追い込まれました。

祇園とて例外ではなく、未だに明かりが消えたままのお店も少なくありません。そんな中、「未曾有の惨禍の只中にある今こそ、祇園を『日本の美意識に出会える街』へと転換するチャンス」と意気込む人たちがいます。商店街や花街、地元まちづくり団体の皆さんです。

「訪れた人々の心が美しくなり、幸せな気持ちになれる祇園を目指そう」「清々しい参道をつくろう」「美意識の高い専門店・料理店・花街を取り戻そう」と、事始めの日、祇園某所で研究会を開きました。初回は京都市立芸術大学の前理事長・学長で哲学者の鷲田清一先生を囲んで。深夜に及んだ議論のオチは、「どんなジャンルでも極めた人がいるのが面白いまちだ」ということ。思い浮かぶお顔が多数。

八坂神社のご加護の許、永らく繁栄を享受してきた祇園。ちよつとやそつとのことでは凹みません。来し方を振り返り、行く末を皆で考えて行動する気概に満ちています。赤穂浪士討入の前夜、仲間を増やさねばと独り言ちた嬉しい晩です。

脱炭素化に向けて地域での取り組みが進みつつあります

植松陽子：

サステナビリティマネジメントグループ

「脱炭素」の記事が日々新聞に掲載されています。

菅首相が2020年10月の所信表明演説で、2050年までにカーボンニュートラルを宣言して以降、国内でも脱炭素化に向けた動きが本格化しています。特に企業においては、サプライチェーンを通して急速に拡大しており、脱炭素に取り組まないことが経営リスクになりつつあります。

国では「2050年CO₂排出量実質ゼロ」表明を全国に呼びかけ、多くの自治体がゼロカーボンシティを表明しました。愛知県半田市もその1つで、2020年10月にゼロカーボンシティを表明し、今年度「ゼロカーボンシティはんだビジョン」の策定を進めています。

ビジョンでは、2050年という未来のビジョンを描きながら、2050年に向けた5つの方針のもと持続的な取組と、2030年に向けた重点的な4つの取組を、行政、市民、事業者が全市一体で推進しようとしています。また、脱炭素に向けた道筋として必要な技術・施策・行動変容などの条件をシナリオとして示しています。

また、ビジョン策定とあわせて、自宅で省エネ行動を実践し

てもらい、エコモニターで電気消費量の変化を実感してもらう市民ワークショップも開催しました。参加者全員が省エネへの関心や意欲が高まったと回答しています。

当社では他にも、地域脱炭素の実現に向けた自治体の計画や戦略づくり、企業向け脱炭素スクールのサポートをしています。脱炭素化に向けた取組は、コストなど負担がかかるものも多く、一様に進めることはなかなか難しいものです。しかし、新しい技術も取り入れながら、できることから取組を進め、子どもたちの未来、まちの未来につないでいくことを大事にしていきたいと思っています。

※「ゼロカーボンシティはんだビジョン」はパブリックコメント中（2022年1月4日まで）、1月中旬に策定予定です。



ゆうりん山小屋「あおむし」が完成しました —子どもたちの未来へ—

間瀬高歩：

建築プランニング・デザイングループ



「あおむし」外観

社会福祉法人中央有鄰学院（以下、学院）は、名古屋市長緑区にて児童養護施設「ゆうりん」、乳児院「ほだか」、自立援助ホーム「きょうわ」、地域小規模児童養護施設「かえで」、ふれあいセンター「おおだか」を運営しています。

当社では、平成19年から21年に児童養護施設・乳児院の併設施設の設計監理を担当しました。

平成29年には、学院の児玉常務理事より岐阜県郡上市内の別荘地にて山小屋建築の設計監理の依頼を受け、この度、令和3年11月に山小屋が完成しました。

別荘地は、標高900メートルに位置し、夏は避暑や川遊び、冬はスキー場や温泉等があります。自然豊かな素晴らしい環境にあります。山小屋は、親元から離れた子どもたちの心身の安らぎや健康増進のため、卒業された方々の集いの場として、また地域や職員の皆様の保養施設として幅広く利用することを

目的としています。



暖炉があるリビングの吹抜け

学院との打合せでは「普通の別荘建築は要らない。子どもたちがワクワクする山小屋を建築したい」と設計依頼をいただきました。山小屋では、一般住宅が持つ居心地の良さや機能性を確保しつつ、土木・工業材料のコルゲート鋼板を屋根外壁材として使用し、どこか愛嬌の感じられる生き物や宇宙船をイメージしたファサード、内部は一般住宅では体験できない2層吹抜けアーチ状の大空間を創りました。陽の当たる開放的なリビングには暖炉を設け、皆が集い心身が温まる建築をめざしました。

竣工引渡では、那須野理事長より山小屋は「あおむし」と命名されました。命名には、腹ペコあおむしが大きく成長し、いつか綺麗な蝶として立派に飛び立っていく子どもたちの未来への思いが込められています。

この場所ですべて子どもたちが四季折々の自然に親しみ、たくさん楽しい思い出ができることを願っています。

※この業務は、原田稔、杉本健太郎も担当しました。

いこまミライ創発会議を開催！ ワークショップの成果を発表しました

小島みのり：

都市・地域プランニンググループ

「いこまミライ創発会議」と題し、50周年記念事業の一つとして、20代までの若者を対象とした「これからの50年後に向けた持続可能なまちのあり方」を考えるワークショップをお手伝いしました。

今回は、ワークショップを通じて完成した各グループの成果を紹介します（ワークショップの内容については2021年9月229号をご覧ください）。

■『恋来生駒』

アンケート調査や街頭インタビューで、おすすめのデートスポットや思い出を聞き、地図にマッピングしました。「ドライブウェイでプロポーズしました！」「いくつになってもベルテラスで一緒にしゃべりたいです。」等、普段なかなか聞くことのできないようなエピソードがたくさん集まりました。

■『生駒道』

生駒市ならではのディープな風景を収集し、各風景の発見の難易度を帯の色ごとに分類し、まとめました。忙しい日々の中では気付きにくい、坂や壁、階段等の魅力を見つけ、SNS等を通じておもしろく発信していく流れをつくり、終わりのない生駒（道）を目指す。そんな流れが続いていくと面白いですね。

■『生駒生活』

「大切な時間を過ごしたい場所」、「思い出の場所」、「おいしい場所」、「なくなつて悲しかった場所」という4つのテーマを設定し、連想する場所とエピソードをアンケートで集めました。「よく通つたうどん屋さんやスーパーが無くなって悲しい」「竜田川沿いの散歩コースが気持ち良い」等、ネットで検索しても出てこない、興味深い情報がたくさん集まりました。

どのグループも、生駒に潜りこまないと集まらない、貴重な情報を得ることが出来ました。参加者の方々には、自分に関わりのつよい地域のことにについて独自の視点で調べ、発表した経験や、ふとした時に思い出してもらえれば嬉しいなあと思います。



ゲストの森本さんからコメントをいただいている様子

社会実験「御堂筋チャレンジ 2021」を実施しました

絹原一寛：
都市・地域プランニンググループ



デジタルサイネージも併設したモビリティポート

道路協力団体・ミナミ御堂筋の会が昨年に引き続き社会実験「御堂筋チャレンジ 2021」を実施しました。歩行者中心の道路空間へ再編が進む御堂筋。2020年にも社会実験を実施も、コロナ禍の影響が大きかったことから、今回はなんば駅前広場の歩行者空間化の社会実験ともタイミングをあわせて、再チャレンジしました。新たな試みとして、来るべき大阪・関西万博をにらんでシェアサイクルやデジタルサイネージ・ベンチ一体型のモビリティハブとなるポートを設置。加えて御堂筋に接続する東西の石畳の似合うカフェストリート、御堂筋西側の沿道テナントとも一緒に、道路空間でのオープンカフェを展開。大阪市・大学研究室やデータ会社による広域の人流データ取得や滞留調査を実施



御堂筋の2期整備区間で、関係者との記念撮影

しました。これらの成果をもとに、エリア全体の歩行者空間をどうハード・ソフト一体でデザインするか。側道閉鎖に伴う歩行者空間化はどんどん北伸しており、大阪・関西万博を一つの目標に、ミナミの道路空間再編はこれからはますます加速していきます。一方で、ミナミ御堂筋の会は、2021年7月に一般社団法人に移行しました。エリアマネジメントの主体として自律的な運営へ、マーケティングや財源確保などの課題に直面しています。我々にも新たな役割が求められていると感じており、関係者の皆さんと議論・実践を重ねながら、レベルアップを図りたいと考えております。※社会実験の詳細はミナミ御堂筋の会のホームページでご覧ください。

名古屋

「名古屋と公共空間の再生」

名古屋事務所 尾関利勝

名古屋は戦災復興都市整備がダイナミックに行われ、新たな公共空間を創出した。例えば久屋、若宮大通の100メートル道路、伏見通、国道19号等の50メートル道路、周辺部の小幡・猪高・相生山・牧野が池・大高等の大規模緑地、区画整理で都心の寺の墓地と墓を移設した巨大な平和公園等、戦災後だから出来た復興都市改造が行われた。

平時には出来ないハードな都市改造が、戦災や震災などの大規模な都市被災の復興として実行されてきた。

堀川通、御池通、五条通は京都では珍しい広い道路景観を持つ。戦中の防空法による疎開で家並みが撤去された。名古屋の100メートル道路や大規模緑地は、防空法の位置づけを復興計画になぞらえ整備した。久屋大通は道路と公園が重なる兼用工作物の珍しい公共空間になった。

復興事業で整備された公共空間が今、再生されている。名城公園は従来制度で商業施設を導入した「トナリノ」が人気を呼び、「久屋大通公園」はPPFI事業で芝生の大広場や商業施設の新しい公共空間に再生された。

太政官令で整備された「鶴舞公園」や第5回国体に使われた「瑞穂公園」でPPFI事業が進行中である。公共空間が民活でどう変わるか、一度お訪ねください。



東京

「JR 神田駅を北口へ出て日本橋へ行ってきました」

東京事務所 佐藤衣織

中央通り（中山道）沿いを歩いて最初はコレド室町へ。コレド室町1・2の間を通る仲通りは、建物の外観と提灯のオレンジライトが日本文化を感じられ、和やかな気持ちにさせてくれます。その日は、2日間にわたって開催されるイベント初日ということもあり、仲通りでもマーケットが開かれていました。予約制のため、残念ながら離れたところから見ることはできませんでしたが、ハンドメイドアクセサリーなど多数販売され、たくさんの人で賑わっていました。

中央通りに戻って最終目的地の日本橋へ向かうと、ちょうど船着場からクルーズ船が出航するときで、今度ゆったりクルーズを楽しむのいいなと思いました。東京事務所からでも30分ほどで日本橋に着けますので、時間があれば行ってみてください。



イベント会場の様子

事務所だより

兵庫県豊岡市に出向中の遠藤から、市での仕事や日々の暮らしについてお伝えします（※出向の詳細はvol.228をご覧ください）。

担当している農業ビジョン推進業務の一つとして、ビジョン推進委員会の運営を行っています。委員には、生産者だけでなく専門家や観光、コミュニティ分野の方にも入っていただいています。現在、優先して進めるべき施策について、委員の皆様にご具体的なプロジェクトアイデアを出していただきながら、議論を進めているところです。提案いただいたアイデアは全部で20近く。例えば、農産物のプラスチック包装の削減や、生産者がPRに使えるカードの作成、若者などの農業への関心を高めるための農フェスの開催、給食食材の

地元産供給率UPなど、いずれも重要なプロジェクトでした。今後、いただいたアイデアをもとにいくつかのプロジェクトチームを創設し、更に内容を検討し、実際に実施していく予定です。

休日は、所属しているグッドローカル農業推進室で運営するSNSの投稿ネタ探しによく出かけています。季節によって様々な農産物が収穫されますし、農業関連のイベントもよく開催されるので、ネタは尽きません。この話をすると、「他に楽しいことはないの?」とか「遊んでないの?」と聞かれることがありますが、ネタ探しは楽しみながらしていますし、遊んでもいます。生きものの写真を撮るのが好きで、撮りに出かけることがあります。やはり自然が豊かで、生息する種



委員会の写真。中央のモニターはプロジェクトアイデアや意見を記録したオンラインホワイトボードサービス「miro」の画面。



豊岡市立加陽水辺公園で撮影したアサギマダラとフジバカマ。

類も多いので楽しいです。また、地域おこし協力隊など移住者の方々と会うこともしばしば。こちらの話はまた次回にお伝えしたいと思います。

適塾路地奥サロン報告

適塾路地奥サロン実行委員会

40回 2021年
11月24日

楽しい公共空間をつくる～プレイスメイキングから考えるまちづくり～

講師：日本大学理工学部建築学科 助教
一般社団法人ソトノバ 共同代表理事 泉山壘威氏

第40回適塾路地奥サロンでは、泉山壘威先生を講師にお招きし、プレイスメイキングについてお話いただきました。緊急事態宣言が明け、巷では社会実験が立て続けに行われています。関西では昨年11月に京都の三条通りや御堂筋で行われました。

今回、泉山先生に講演いただく前に、当社の中塚とともに、なんば駅前広場と御堂筋の見学を行っています。この日、なんば駅前広場や沿道のカフェにはテラス席が設けられ、まるでヨーロッパの街角の雰囲気であったわけですが、その裏にはたくさんの協議や手続きがあったことなども含め、ご案内しました。

泉山先生は「プレイス」をつくるには滞在快適性を高めることが重要であると指摘します。また、プレイ

スメイキングは単なる“賑わい至上主義”であってはならず、イベントよりも日常をつくる必要がありますとお話いただきました。講演後半では、プレイスメイキングで重要なフェーズとなる「場所の特徴と課題を読み解く」ために開発された「プレイス・ゲーム」について話題提供をいただきました。「プレイス・ゲーム」は住民主体で「場所」の評価を試みるツールで、評価指標が定量的に示されている点が特徴的です。これにより、あらゆる主体の評価やニーズをバイアスなく拾うことができると泉山先生は指摘します。

昨今の都市再生の潮流として、道路や公園といった公共空間の利活用が挙げられますが「楽しい公共空間」や「居心地が良くなる歩きたくなるまちなか」は一体“だれ”が想定されていて、はたまた“だれ”がこぼれているのかと考えます。どうしても人の流れや経済活動といった「賑わい」で評価されがちな「公共空間の活用」ですが、そうではない「日常」への貢献をもとに評価指標がつけれるとプレイスの様相も（その場を楽しむ人たちの様相も）多種多様になっていくのではないかと思います。（筈谷友紀子）

受賞しました

近況 & イベントのお知らせ

地方シンクタンク協議会の取組紹介セミナーに参加 論文アワード優秀賞を受賞しました

絹原一寛

都市・地域プランニンググループ

全国のシンクタンクが相互に情報交換・人的交流を行うことを目的に設立された「地方シンクタンク協議会」に、アルパックも加入し活動に参加しています。

昨年10月には、「取組紹介セミナー」に登壇、「持続可能な地域づくり」の実践面にフォーカスし、私からは「都心のストリートマネジメントの現場から」としてミナミ御堂筋での実践を、サステナビリティマネジメントグループの中川からは「脱炭素化社会・スマートなミライに向けた地域の現場から」として兵庫県下

他での脱炭素化や人材育成、都市の木造・木質化などの実践を紹介しました。

12月には、会員の活動成果の発表、提言の発信を目的とした「論文アワード2021」に応募し、「ポストコロナのメインストリート像～大阪・御堂筋ミナミエリアを舞台に」で「優秀賞」を受賞することができました。多様な実践を通じて、持続可能な地域づくりへの貢献をめざす取り組みの一端を知っていただく機会に恵まれ、今後とも精進していききたいと思います。

中学生がSDGsに関する学習、実践するプログラムに参画

中川貴美子

サステナビリティマネジメントグループ

大阪市立新巽中学校（大阪市生野区）と独立行政法人国際協力機構関西センター（JICA 関西）が連携してSDGsを学び自ら実践するプログラムとして行っている「学ぶSDGsから、やるSDGsへ～でっかく考えて、ちっちゃいことから始めよう～」に大阪府内のSDGsに取り組む企業・団体（29社）の一員として参画しました（連携：独立行政法人国際協力機構関西センター（JICA 関西））。

当社からは、訪問してくれた3名の生徒さんに、「①身近な地域で使われていない空間の活用方法を考える」

「②提案によって起こりうるトレードオフを考え、誰一人取り残さない解決方策を考える」の2つのミッションを提示しました。ミッションを受けて、それぞれ調べ、悩み、「公園への太陽光発電設置」や「中学生の居場所としてスケボーパーク」等の提案をとりまとめ、生野区で中学生の居場所「スケボーパーク」をどうやったら作れるか？地域の大人たちを巻き込めるか？を一緒に考えました。生徒さんの学びは、生徒発の「しんたつランド（SDGsを知り・体験・体感できるテーマパーク）」（2022年秋ごろ開催予定）まで続きます。

これからの社会・都市の新たな価値創造について 考える場を開催しています

羽田拓也

地域再生デザイングループ

近年、ICTやIoT、スマートシティ、DX、ビッグデータといった言葉に代表されるように、社会のデジタル化やツールの活用が進められて久しいですが、コロナ禍を受け、ニューノーマルなどをキーワードに社会全体が、新しい社会や都市に向けた様々な動きが加速した感があります。こうした社会の動きに加え、大阪・関西万博を2025年に控えるなかで、大阪の都市としての新たな価値創造をどう進めるかを考える機会として、大阪で活動する企業のネットワーク組織であるCITÉさろんでは「官民連携による都市の新たな価値創造について～デジタル化の急速な進展やニューノーマルへの対応～」をテーマに専門家をお呼びし、今年度のCITÉトークセッション2021を開催しています。

第1回では、神戸市においてスマートシティの検討などに携わっておられた神戸国際大学の松崎太亮さんに、神戸やバルセロナが進めているスマートシティ化

の取り組みについてお話いただきました。

第2回は、都市空間の空き駐車場などをアプリで予約できるサービスを展開するakippa株式会社の金谷元気さんに、シェアリングエコノミーの展開を通じての都市課題の解決に向けた展望などをお話いただきました。

第3回は、「デンマークのスマートシティ（学芸出版社）」の著者でもある三菱UFJリサーチ＆コンサルティングの中島健祐さんに、幸せを実感できる暮らしや持続可能な経済成長へのデータ活用の状況や展開などをお話いただきました。

異なる立場・視点の3名から、これからの社会におけるデジタル化やデータ活用等を通して、大阪の価値創造にどうつなげていくかの示唆をいただきました。年明けには、3回のトークセッションを踏まえ、とりまとめの議論の場としてのシンポジウムを予定しています。ご興味・ご関心のある方はぜひご参加ください。



まちかど広場には偉人たちが集い、
コロナもきつと乗り越えられるよと力をくれているよう

新開夏織：
建築プランニング・デザイングループ



「人」の姿で街なかを元気に！ ～佐賀市街なかバルの取り組み～

秋も一段と深まり、寒さがしだいに
募るようになってきた頃、まちには
人の姿が戻っていました。

そのようなまち様子を見ると、ひ
んやりとした風の寒さも、少し和ら
げてくれるように感じます。そんな
中、街なかの賑わいづくりの一環と
して佐賀市で取り組んでいる「佐賀
市街なかバル」に参加しました。

まちなかバルは、2004年に函
館市で行われた「函館西部地区バル
街」を参考に全国各地で取り組まれ
ている、まちの活性化を目指した「食
歩き」「飲み歩き」のまち歩きイ

ベントです。佐賀市でも、街なかの
回遊性向上による賑わい創出を目指
し、2009年に第1回を開催して
から2021年までに計14回開催し
ています。

バル参加者は、まず、パスポート
を購入し、ガイドマップを見ながら
気になるお店を選びます。行き先を
決めたら、目的のお店までまち歩き
を楽しみながら向かいます。そし
て、お店についたらパスポートを見
せ、バルメニューを注文します。バ
ルメニューはバルイベントのために
作られた特別なメニューで、色々な
お店をハシゴするほどお得に楽しめ
るのが特徴です。これにより、初め
てのお店でも気軽に足を運ぶことが
でき、そこでのこだわりメニューを
味わい、お店の雰囲気や人との会話
を楽しむことで、新たなお気に入り
を見つけることができるのがバルの
醍醐味です。また、バルをきっかけ
にまち歩きをする中で、思いがけな
い出会いもありました。例えば、街
なかに突如現れる、等身大の偉人モ
ニュメントたち。これは、明治維新
150年を記念して行われた博覧会
で使用したもので、佐賀県にゆかり
のある偉人総勢25名を佐賀市の街な

かの各所に設置し、通りを楽しんで
歩いてもらうことや、佐賀県内にあ
る偉人ゆかりの地にも足を運んでも
らいたいの思いで行っているそう
です。交差点の一角にあるまちかど
広場には、様々な分野で業績を残し
た偉人たちが集まっている所もあ
り、異世界に入り込んだような、ユ
ニークな情景を作っています。

その他にも、佐賀で行われている
東アジア最大級のバルーンフェスタ
の関連イベントや、夜には街なかの
ライトアップなど、まちを楽しみむし
かけが充実しており、たくさんの人
に街なかを楽しんでもらいたいとい
う地元の方の気持ちが伝わりました。

私も今回の参加で佐賀にお気に入り
のお店ができました。遠方なので
なかなか行くことは難しいのです
が、近くに行く機会があれば、是非
立ち寄りたいと思っています。

まちなかバルは、住んでいる人・
遠方から来る人の双方が、まちの
新たな側面を開拓できる取り組み
です。もし
身近なまち
でバルがあ
れば、新た
な出会いを
探す旅に出
掛けてみて
はいかがで
しょうか。



お店自慢のバルメニュー

表紙写真：高度 300m、時速 200km、名古屋都心上空から市街地東を望む（撮影 尾関利勝）

「レターズ アルパック」は、ホームページからご覧いただけます。

アルパック (株) 地域計画建築研究所

Architects, Regional Planners & Associates, Kyoto
<https://www.arpak.co.jp> E-mail: info@arpak.co.jp

本社・京都事務所

〒600-8007 京都市下京区四条通高倉西入立売西町82 TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

大阪事務所

〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7 日本生命今橋ビル10F TEL(06)6205-3600 FAX(06)6205-3601

名古屋事務所

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-27-2 日本生命笹島ビル17F TEL(052)462-1030 FAX(052)462-1061

東京事務所

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-15-7 ユニゾ内神田1丁目ビル4F TEL(03)5244-5132 FAX(03)6273-7715

九州事務所

〒810-0802 (株) よかネット：福岡市博多区中洲中島町3-8 福岡パールビル8F TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128

滋賀営業所

〒527-0012 東近江市八日市本町9-14 TEL(0748)36-2065 FAX(0748)36-2168

ホーチミン（ベトナム）No.187/7, Dien Bien Phu Street, Da Kao Ward, District 1, Ho Chi Minh City, Vietnam



この用紙は「びわ湖の森を元気にする」
kikitoペーパーを使用しています。